



## 【幸いな人・幸いな人生】

説教者: 鄭南哲牧師

聖書本文: 詩篇1篇1節~6節/暗唱聖句: 詩篇107篇19節~20節

(Rev. Jung namchul)

愛するクリスチャンプレイズチャーチ信仰の家族のみなさん！お正月休みの間いかがお過ごしでしたか。

まず左右、前後ろの方と挨拶をまわしましょう。新年あけましておめでとうございます！新しい新年にもみなさん、どうぞよろしくお願いいたします。先週元旦礼拝の時には、年一度の洗足式が行われ、お互いに足を洗い合う時を持ちました。イエスキリストがモデルを見せて下さったように、従って愛のうちにお互いに仕え合うことを行いました。今年一年も、イエス様がなされたように、まず膝をまずき、先に仕えていく CPC 全家族となりますようにお祈り申し上げます。

愛する信仰の家族の皆さん、新しい一年の最初の日、私たちは神の御前に集い、礼拝を捧げています。新年になると、私たちは自然にこう祈ります。「今年は祝福された一年になりますように」、「今年は守られ、恵まれますように」それ自体は、とても大切な祈りです。しかし、詩篇 1 篇は、新年の最初に、私たちに少し違う問いを投げかけます。

## 「祝福を求める前に、あなたはどの道に立つのか」

詩篇 1 篇は、一年の計画を立てる前に、「今、どこに立っているのか、そして、どちらに向かっているのか、人生の方向」を問い直します。詩編 1 編 1 節は、こう始まります。

「幸いな人は…」、ここで使われている「幸い」という言葉は、ヘブライ語で「アシュレー／ashrei」と言います。

この言葉は、「これから祝福を受ける」という意味ではありません。また、「成功している」「順調である」という評価でもありません。ashrei は動詞ではなく、感嘆の言葉です。「ああ、なんと幸いな状態にある人だろう」、「正しい場所に立っている人だ」つまり、詩篇 1 篇が語る幸いとは、神の前で、すでに正しい道の上に立っている状態なのです。祝福は、神が与えてくださるものです。しかし、幸いとは、神の前でどこに立っているかという、人生の位置の問題です。

## &lt; 詩篇 1 篇は &gt;

詩篇 1 篇は詩篇 150 篇全体のテーマを要約したものです。ですから詩篇 1 篇は詩篇全体の緒論(しよろん)だと言えます。「どんな人生がいったい幸いな人生であるか」が重要な質問であります。信仰は心の感情ではなく、実際生きる人生の方向を決めることであると教えようとしています。

本日、詩篇全体のテーマを含めている今日の詩篇の本文には、私たちの人生に二つの道があることを教えて下さっています。詩篇 1 篇では、繰り返し「道」という言葉が出てきます。聖書における「道」とは、一つ一つの行動のことではありません。それは、「どこに身を置いてきたか、どの声に耳を傾けてきたか、どこに自分を立たせ続けてきたか」という、人生全体の方向を表します。神は、一時的な成功や失敗よりも、その人が生涯を通して、どの道に立ち続けてきたかをご覧になります。

今日の本文では、詳しく正しい者の道と悪者の道、この二つの道の中どんな道を選ぶかによって私たちの人生は完全に変わるということです。今日の本文である一篇の最後の 6 節をよく見てください。

「まことに、正しい者の道は主が知っておられ、悪しき者の道は滅び去る。」

すなわち、人生の道をただしく選択しなければならないという御言葉です。マタイの福音書 7 章でも、イエス様は詩篇 1 篇と似たようなメッセージをされました。マタイの福音書7章13、14節です。「13狭い門から入りなさい。滅びに至る門は大きく、その道は広く、そこから入って行く者が多いのです。14いのちに至る門はなんと狭く、その道もなんと細(ほそ)いことでしょう。そして、それを見出(みいだ)す者はわずかです。」

イエス様はここで幸いな人はどんな人ですか。狭い門に入る人、命に導く門に入る人は幸いだと教えて下さいました。

## &lt; 悪者と正しい者の基準 &gt;

みなさんに一つ質問をしたいと思います。そしたら、みなさんは人々を見ると、その人が本当に幸いな人、つまり正しい

人なのか、悪者なのか見分けることが出来るでしょうか。私たちはたった目に見える部分のその人の初印象、言葉遣い、表に出されている行動程度を見て、その人について決め付けようとする時が多くありませんか。しかし、私たちのその区分がいかに勘違いしやすく、どれほど難しい時のか分かりません。

罪の道なんかは全然関係がなさそうに見えた人が突然おそろしい罪を犯すときもあり、相当悪者のように見えていた人が意外と、とても善良な人であったか後になって分かる時が時々あります。

しかし、もっと大切なことは、人の基準ではなく、神様の基準でどんな人が幸いな人、正しい人なのか、滅び去る悪者なのかではないでしょうか。

今日みなさんは、神様の御前で幸いな人、正しい人の歩んでいると思いますか。それとも滅びうせる悪者の道を歩んでいると思いますか。幸いな人、正しい者と悪者について記されている特に詩篇でその基準が何だと教えているのでしょうか。実際この質問は、詩篇全体に流れていく大切なメッセージだと言えます。

それは‘神の御言葉に対する態度’がその基準だと私たちに教えています。つまり、神の御言葉に対する人の態度が悪者と幸いな者、正しい者を完全に分けさせる基準となるということです。

今日の本文2節では幸いな人はどんな人だと言っていますか。「主のおしえを喜びとし、昼も夜もそのおしえを口ずさむ。」どういう意味ですか。神の御前で、幸いで、正しい人は、神の御言葉をたのしみ、その御教えを昼も夜も黙想する人、すなわち、御言葉から離れず御言葉と共に生きる人だということです。

反面、悪者はどうやって生きますか。1 節「幸いなことよ。悪しき者のはかりごとに歩まず、罪人の道に立たず、嘲る者の座に着かない人」、この御言葉によれば、神の御前で幸いな人生を歩んでいる人は、

神様の御言葉によって生きていく反面、悪者は何によって生きますか。「(悪しき者は)自分のはかりごとに歩む人」であります。日本語でははかりごとで訳されていますが、神の御前で、悪者は自分の思い、頭にたより、自分の計画、目的、たくらみ、策略で生きる人です。この‘はかりごと’に該当するヘブル語は‘アサート(atsat)’という単語です。

これを英語で訳すと、‘counsel, advice, purpose’ という意味になります。

昼も夜も‘どうすれば、ほかの人より成功するために、他の人の上に立つことができるか、どうすれば自分の願いどおり、思うままの人生になれるか、どうすれば欲しがるすべてを手にいれることが出来るか。これらのことばかり考え、たくらみ、絞り出します。

実際、みなさん！ この世の中で神の御言葉を知らない人たちは、すでにこのような生活や考え方になれて、そのように生きるのを当然のように考えるでしょう。ところが、今日神様からの御言葉は、このように御言葉より、自分のはかりごとによって生きる人を悪者だと厳格(げんかく)に分けています。

これは単なる信じていない人たちだけをさすことでしょうか。そうではありません。教会内にも十分その悪者に該当する可能性があります。神の御言葉による信仰も、祈りよりも、いつも先に自分の頭だけたよって、悩み、会議ばかりしようとし、自分たちの思いと計略に生きよとする本姓と可能性が私たちにも十分あるのではないのでしょうか！イエスを信じている人々さえも神の御言葉に対して根ざされてないまま、自分のはかりごとに生きようとする人たちは、いくらでも悪者になれると聖書は警告しているのです。

#### < 旧約の神の御前で正しくて良い王たちと悪かった王たちの共通点 >

旧約の申命記を読んで見ますと、イスラエルの王たちに良い王として立たされ、用いられるのを望んでおられる神の願いと命令が書かれています！旧約聖書申命記17章18-20節の御言葉をさがして読みましょう。

「18その王国の王座に就(つ)いたら、レビ人の祭司たちの前にある書から、自分のために、このみおしえを巻物に書き写(うつ)し、19自分の手もとに置き、一生の間、これを読まなければならない。それは、王が自分の神、主を恐れ、この

みおしえのすべてのことばと、これらの掟(おきて)を守り行なうことを学ぶためである。20それは、王の心が自分の同胞(どうほう)の上に高ぶることのないようにするため、また命令から右にも左にも外れる(それる)ことがなく、彼とその子孫がイスラエルのうちで、長くその王国を治めることができるためである。」

王たちが神様と民たちの前で正しくて良い王になるために、神様は出て行って勇敢に戦いなさいとか、神様にたくさんの献金を捧げなさいとか、熱心に奉仕しなさいなど色々条件を出したのではなく、ただ単純な一つだけの命令でした。それは何でしたか。

“神様の御教えをいつも自分の手元に、近くにおいて、日々、それを読み、学んで、守り行うこと”だけでした。

愛するクリスチャンプレイズチャーチ信仰の家族のみなさん！この世の価値観は、目に見えるたくさんの業績や成果をどのぐらい残したのかによって、良い王だったとか、悪い王だったとかを判断しようとしします！はたしてそれはただしい判断の基準になるでしょうか。むしろ、歴史の中では悪い王たちの中こそ、外的にはもっとすぐれたかのように見える多くの業績や成果を残した場合が多くあります。

たとえば、聖書で一人を例をあげて見ますと、旧約聖書の中ヤロブアム2世という王がいました。彼は実際イスラエルの歴史の中で外交的にも、軍事的にも卓越した王でした。国を豊かにさせました(第二列王記 14 章)。しかし、聖書は彼を悪い王だったと(第二列王記 14 章 24 節「彼は主の目に悪であることを行い、イスラエルに罪を犯させたネバテの子ヤロブアムのすべての罪から離れなかった。」)評価されています。ダビデ王以来ヤロブアム2世はイスラエル歴史上一番広い領土を確保するほど活躍しましたのにもかかわらず、神の前では、あいにく悪い王たちの中でただ一人にすぎなかったのです。

旧約時代のイスラエル王たちの記録をくわしく書いてある列王記第一、第二を詳しく読んで見ると、悪い王たちの特徴と共通は、彼らは神様の御言葉をたよらず、従わずに、いつも周りの国や人々の力に頼りながら、外交ばかり気を配ったことがわかります。つまり、馬が大切だ、武器が大切だと言いながら、隣の国と取引をし、絶えず人々に頼り、力ある国に影響され、目にみえるものに依存したため、結局ほかの国や人にまた滅ぼされる歴史がしばしば出ています。イザヤ書31章1節を通して神様の御前で悪かったものたちに対して、神様はこのような評価しています。「ああ、助けを求めてエジプトに下る者たち。彼らは馬に頼り、数が多いといって戦車に、非常に強いといって騎兵(きへい)とに拠り頼み、イスラエルの聖なる方に目を向けず、主を求めない。」

私たちは今日神様のこの御言葉を真剣に受け止めながら、真剣に自分の生き方を振り返り、どうなっているのか点検しなければなりません。聖書の御言葉による神様の基準と視覚は、今この世の中であなたがどれほど成功したか、失敗したかで善悪を判別するのではなく、神様の御言葉のみがその基準であることをひたすら強調しておられるのです。

今日私たちがどんなにこの世の中で認められ、出世し、成功したとしても、神様の御言葉から離れたら、だれでもあの悪い王たちのような存在と人生になりがちであるという神様の絶対真理を忘れないでください。

そして、この真理の御言葉通り信じて従っていく、私とみなさんになりますようにお祈り申し上げます。

それでは神の前で幸いな人、つまり、正しい人の姿はどんな姿なのみてみましょう。

もう一度、今日1節の御言葉によると、幸いな人は悪者、罪人、あざける者のようにしない人です。

悪者、罪人、あざける者の共通点の一つは自分がいつも正しくて、自身が基準だと思い込んでいる、でも実は基準がない人々ことです。旧約の士師記には基準なしに生きていた人々の姿がよく 表わされています。その士師記の最後の箇所である21章25節ではこのように書かれています。「そのころ、イスラエルには王がなく、それぞれ自分の目に良い(正しい)と見えることを行っていた。」神様の御言葉という基準がないため、ただ自分の思い、感情、直観、経験上の正しいと見えることばかりを行っていたと書かれています。

しかし神の前で幸いな人、正しい人はその反対に行います！自分が自分の人生の主人、基準ではなく、基準なしに生き



るのではなく、いつも神の御言葉の基準をもってその絶対基準として従い、守り行って生きようとします。

聖書を英語のほかの言葉では、カノン(Cannon)とも言います。

聖書がカノンカメラという意味ではなく、もともとカノンの意味はものさしを意味します。つまり、聖書がはかれる絶対基準であり、標準であり、核心、尺度(しゃくど)となるという意味です。神様の御言葉こそ、人が正しく、幸せに生きる為の標準であり、道案内になり、時代が変わり、人が変わり、環境が変わって、この世の全てが変わっても、主の御言葉は代わらなかったし、これからも世々に至るまで変わらない、神様からの唯一絶対的な、核心的な真理であり、基準だから、昔から神の御言葉聖書をカノンと呼ばれたわけであります。

「天地は消え去ります。しかし、わたしのことは決して消え去ることがありません。」(マタイ 24 章 35 節、マルコ 13 章 31, ルカ 21 章 33 節) 今日詩篇一篇は、1 節から神は私たちに明確に提示して下さっています。

神様の御言葉を慕い求めながら生きる人生、その人は祝福され、幸せに生きれるが、神様の御言葉から離れて生きるものは悪者になり、罪人となり、あざける者の道に歩んでしまうことになる事実をはっきりと伝えて下さっているのではありませんか。ある面で、私たちはこの御言葉を恐れ多く心に受け取るべきだと思います。

### < 幸いな正しい人の姿は >

本文 2 節を見ると、幸いな人は、神様のおしえを喜びとし、昼も夜もその教えを口ずさむと書かれています。

神様の御前で幸いな人は神の知らない世間の人々が思い込みのような神の律法、すなわち神様の御言葉が自分の生活を制限し、自由が束縛されるのだと考えるのではなく、むしろ祝福だと信じています！

まるで汽車が線路、レールの上を走る時が一番安全で、自由に本来の目的地に一番早く着くことができると思われるのが当然であるように、幸いな人はむしろ神様の御言葉こそが自分の人生のレールのように考え、信じます。

それでいつも自分の人生を御言葉の線路、レールを走り、その御言葉のレールに従って走ることこそ、自分の人生のまことの目的を見出し、自分が望まれたところに安全に着くと信じ、従って生活することによって、さらに祝福されることを信じます。神様の前で幸いな人は神の御言葉のレールから離れ、脱線(だっせん)する時こそ、不安で危機で、さまざまときである事実をよく知っている人です。そのため、その人はいつも神様の御言葉を黙想します。

日本語の聖書ではこの黙想(meditation)の意味を「口ずさむ」という単語を使って黙想とは何かを説明しています。ヘブル語では「ハガ(hagah)」ということばですが、これは「意味を吟味(ぎんみ)しながらしずかに、やさしく口を出して読む」意味を持っています。

教会の信仰の家族のみなさん！サタンや悪しき者はたえず神様を信じている人たちをつまづかせるために、神様の御言葉を黙想代わりに、人のこと、人の言葉や思い煩いを頭から離れず黙想させようとします！人の心配事と思ひ煩いばかり考え、そればかり考える人をまるで慎重(しんちょう)な人かのように言われる人もいますが、むしろ、それこそ人が心の病気になるがちではないでしょうか。聖書は思い煩いは繰り返して黙想しないで神様にゆだねなさいと言っています。

人を対象に続けて考え黙想してしまうと、不思議なことにその人をもっと愛するより、もっとその人を執着してしまうか、憎むようになることを我らはよく経験して来られたと信じます！聖書は幸いな人生、幸いな人になるためには、人を黙想する対象ではなく、ただ愛する対象であり、神とその神の御言葉を絶えず黙想することを教えています。

例)最近では過去と違ってインターネットや AI 時代となり、私たちに様々な面において影響を与え、便利な情報などを簡単に手に入れ、流して、与えています。私は今まで軍隊の教会での 2 年間の牧会をふくめると、毎週メッセージを語ってきから約 32 年ぐらいいになります。とっても弱いし、まだ足りないことばかりのこの者なのにもかかわらず、神学校でのときから説教する機会が多かったような気がします。なぜこの話をするかという自分の経歴をほこるためでは決してなく、まだインターネット文化が一般化されなかった 30 年前の神学校の時代の私の姿を振り返ると、日曜日のメッセージ編ずつ準備するためにどれだけ一生懸命に準備したのか分かりません。メッセージの本文となる聖書の御言葉を

ほぼ暗記するほど何十回も読み、ご飯を食べながらも、寝るときでもメッセージ箇所となる聖書の本文を繰り返し読み、黙想しました。それでも準備がうまく進まなければ、ひざまずいて神様にこの御言葉をただしくさとらせてくださるよう切に祈りました。神学校の時代、伝道師としてまだ幼かった時でしたが、素晴らしい神は、教会の長老たち、年老いた方々さえもメッセージを通して、泣きながら悔い改めに導いて下さったり、恵ませ、癒しの恵みを体験させてくださるほど素晴らしい神様の御わざを何度も体験させて下さいました。ところが、インターネットが一般化にされ、最近の私を見ると、神様の御言葉を黙想するより、むしろ神様の御言葉をコンピュータで検索したり、参考にするのに夢中むになっていた時が普通になってしまっています。もちろん、それが決して悪いとか意味ではなく、有効に使うことも必要ですが、私が言いたいポイントは、その結果、それほど説教の準備が昔と比べてとても楽になり、便利にはなっていますが、その分実際聖書を開き、読み、黙想する時間は昔と比べると大分短くなってしまったことをある日神様は気づかせて下さいました。ある日祈りの中でまるで、神様から『君！私が私の御言葉を黙想しろと言ったのではないか。私の御言葉を検索しろとは言っていないぞ。』と怒っている神様の姿が思い出されてその以来、できれば説教の準備の為、御言葉を一週間ずっと祈り、毎朝黙想するように心掛けており、インターネットなどただ、参考にする程度にし、聖書代わりにならないようにとても注意しています。みなさんはいかがでしょう。

最近、みなさんの手には何がありますか。聖書よりも、もちろん、スマホやパソコンで聖書を読む方々もいなくはないですが、その場合よりも、聖書の代わりにスマホやインターネットの記事、人のことや人の言葉ばかりの内容を読み、黙想している日々にならないように新年からはともに注意しましょう。

#### < 御言葉を喜びとし、黙想する者への祝福 >

愛するクリスチャンブレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！ 神様が私たちにこの尊い聖書を与えてくださったのは、いつも私たちの近くにおいて黙想するためであり、それによって神の御言葉を忘れず、守り行うことが出来るようになることが、神の御前で幸いな人となることを忘れないで下さい。義務ではありません！2 節によると、『主のおしえを（義務ではなく）喜びとし』、『昼も夜も』とは生活の全体のリズムになっていて、生活の中心となり、御言葉にしっかり根ざしているので、昼も夜も、御言葉を思いめぐらす人生を生きます。

そうすると、まるで、3節に『その人は、流れのほとり（嵐がないから身を結ぶ木ではなく、嵐にも耐えられ、必要な供給と栄養分が絶えることのない場所）に植えられた木。ですから、（焦る必要はなく）時が来ると実を結び、その葉は枯れず、そのなすことはすべて栄える。』ように、御言葉に値を下して生きる人とその人生は、決して無駄になることはないこと、必ず、時が来れば、豊かな実を結ぶ人生となることを約束されているのです！！

御言葉に対するダビデはこのように告白しています。詩篇119篇1～3 節、97～104節です。

「幸いなことよ。全き道を行く人々、主のみおしえに歩む人々。2幸いなことよ。主のさとしを守り、心を尽くして主を求める人々。3まことに彼らは不正を行わず、主の道を歩みます。97:どれほど私は、あなたのみおしえを愛していることでしょう。これがいつも（一日中）私の思いとなっています。98:あなたの仰（おお）せは、私を敵よりも賢くします。それがとこしえに、私のものだからです。99:私には私のすべての師にまさる賢（かしこ）さがあります。あなたのさとしが私の思いだからです。100:私は老人（ろうじん）よりも見極めができます。私があなたの戒めを守っているからです。101:私はいかなる悪の道にも、足を踏み入れません。あなたのみことばを守るためです。102:私はあなたの定めから外れません。あなたが私を教えられたからです。103:あなたのみことばは、私の上（うわ）あごに、なんと甘いことでしょう。蜜よりも私の口に甘いのです。104:私には、あなたの戒めがあるので、見極めができます。それゆえ、私は偽りの道をことごとく憎みます。105:あなたのみことばは、私の足のともしび、私の道の光です。」

すると、神様の御言葉を喜びとし、いつも黙想するものに与えられる祝福は何でしょうか。

3節です。『その人は、流れのほとりに植えられた木。時が来ると実を結び、その葉は枯れず、そのなすことはすべて栄える。』どんな意味ですか。私たちの人生がまるでときわぎ、常緑樹（じょうりよくじゅ）のように飢饉があっても枯れないで、いつも栄えて実を結ぶ豊かな人生を生きると約束されています。どうしてそれが可能ですか。私たちは流れの水

路のそばに根を深く下した木のようなからです。

自分一人で苦勞し、戦うときよりも、神によって守られ、祝福されもっと栄えることを体験されると信じます！

ヨシュア記 1 章 8 節の御言葉を忘れないでください。

「このみおしえの書をあなたの口から離さず、昼も夜もそれを口ずさめ。そのうちに記されていることすべてを守り行うためである。そのとき、あなたは自分がすることで繁榮し、そのとき、あなたは栄えるからである。」

反面、悪者の結末はどうですか。見た目はとっても丈夫に見えます。まったく問題なさそうに見えます。しかし、実際の内容は4－5節のように飢饉がおとずれると枯れるし、根が短いため、すぐ強い風が吹いてくるたびに、吹き飛ばされそうなもみがらのように振り回される人生になります。これは神の見助けも、力も実際頂けない状態となることを意味します。

### < そしたら今日どうでしょうか。 >

愛する信仰の兄弟、姉妹たちのみなさん！ みなさんにひとつ問いたいことがあります。

今日みなさんが家に帰ると、神様の御言葉であるみなさんの聖書はどこにおかれているのか見て見て下さい。いつもみなさんのそばに、手元におきますか。それとも教会用のカバンの中に、それとも本棚にほかの本たちと一週間ずっと入れっぱなしになっているのでしょうか。神様の御言葉をたくさん黙想しようとするといつも近くにおいて読まなければなりません。神様の御言葉が一日中常に自分の思い、考え、ことばと行いになるためにはたくさん読み、そして御言葉をたくさん聞かなければなりません。

使徒の働き 10 章 44 節です。「ペテロがなおもこれらのことばを話し続けていると、みことばを聞いていたすべての人々に、聖霊がおくだりになった。」神様の御言葉を聞くだけでも、変化が起こります。みなさん自分自身や子供、家族が祝福されるためにでも、日曜日の礼拝もきちんとささげ、神の御言葉に傾け、聞く機会を保つように努力しましょう。それは何よりも祝福され、幸いな人生を歩める近道です！しかし、御言葉を我らの生活にしっかり根ざしていくためには、日曜日礼拝一度では足りないでしょう。日々早天祈り会に参加するか、ご自宅ででも御言葉を黙想するディボーション集を用いるのはいかがでしょうか。今年中是非道コースの聖書学びを申し込んで、御言葉を集中して学ぶことは、みなさんの生活により御言葉が根ざされていくためにとても役に立つ方法であると信じます。

### メッセージを終わらせます。

本日詩篇 1 篇は、新年の最初に、こう問いかけます。「今年、あなたはどこに立つのか」

祝福は、後から神が与えてくださるものです。しかし、幸いとは、神の前で御言葉に根ざし、道の上に立っている状態です。今年も、風は吹くでしょう。状況は変わるでしょう。社会も、教会も、私たち自身も変わっていきます。

それでも、水路のそばに植えられた木は、季節が変わっても場所を移しません。だからこそ、時が来ると、必ず実を結びます。2026 年の最初の日、私たちはこのように心に決めたいと思います。

- ・ 今年も御言葉のそばに立ち続けます！・ 御言葉が語られる礼拝の場所を大切にします！
- ・ 目立たなくても、御言葉に根ざし続け、聖書が教える正しい道を歩み続けます！

そのような人生を、聖書はすでにこう宣言しています。

「ああ、幸いな人。主の道の上に立っている人は。」この一年も、主は私たちを見捨てることなく、御言葉の道を知っていただく方です。この主に信頼し、御言葉に根ざして歩む新しい一年を歩み出してまいりましょう。アーメン。

「この天地は滅びます。しかし、わたしのことばは決して滅びることがありません(ルカ 21:33)」と言われたイエス様の御言葉を今日一日も、この一週間も、そして我らの人生において御言葉から離れず、心にいだき、刻んで従って歩む神の御前でみんな幸いな人生、人として歩めるみなさん一人、一人となりますようにイエス・キリストの御名を通してお祈り申しあげます。詩篇 107 篇 19 節～20 節の御言葉「この苦しみのときに、彼らが主に向かって叫ぶと、主は彼らを苦悩から救われた。主はみことばを送って彼らをいやし、その滅びの穴から彼らを助け出された。」アーメン！